



かわさきFMが清掃職場をクローズアップ取材 分会長、マスクを外しての収集に理解を求める

6月15日(月)、私達の清掃支部の仲間がかわさきFMに出演した。毎週月曜日15時30分から地域情報を取り上げる「かわさき ホット☆スタジオ」という番組で、新型コロナウイルスが流行するさなか、市内の家庭系普通ごみを収集する市職員をクローズアップ取材したこの企画。中原分会の分会長がリポーターにインタビューを受け、コロナ禍の収集現場について話した。

番組は、新型コロナウイルスが流行するさなか、市民生活にとって欠かすことができない家庭系普通ごみの収集業務についてクローズアップ、リポーターが収集事業所へ来所して収集職員へインタビューする形で進められた。

番組に登場したのは中原分会の村上分会長と事業所の木下担当課長。

▲取材を受ける中原分会、村上分会長

まず、リポーターから中原生活環境事業所の役割について質問があり、担当課長がそれに答えた。保有している車両台数や在籍している職員数などを説明したのち、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が発令されてからも、ごみ収集を滞らせないよう、時差勤務を行って感染リスクの低減を図り、平常時と同じように職員を出勤させて1週間あたりの収集回数を減らすことなく収集業務を行っていることが説明された。他には、コロナ禍でも継続して行政サービスを行っている収集職員に対して、「地域



川崎市職員労働組合
清掃支部
発行
川崎市川崎区東田町7-2
東田ビル2階

電話 044(22)5906
発行責任者 渋谷 勝美
編集責任者 稲葉 拓也



清掃支部ホームページ
QRコード




私たちの清掃職場で 環境省がごみ収集作業員向け啓発動画を撮影

住民の方から励ましと感謝のメッセージをいただくこともあり、大変感謝しています」と話された。

次に、ごみ収集現場の職員を代表して、中原分会の村上分会長がインタビューを受けた。コロナ禍で収集作業中に市民から声をかけられることがありますかと質問を受け、「お茶どうぞ」、「よかったらマスクを使つてください」と差し出されたことがあります。収集業務をしているとつらい部分もありますが、市民から応援の言葉をいただけるとやりがいを感じると話された。

取材は、ごみ収集職員の感染症対策に移り、3密を避けるために全体ミーティングは半数に分けて時間をずらし、除菌のため帰所時は手洗い・うがいを励行、消毒液による手指の消毒を行っていることが分会長から説明された。マスクの着用については、リポーターから夏場の着用は大変ではないかと質問を受け、「市民の方と話すときはもちろん着用しなければいけないが、この暑い時期はマスクを着用しながらの収集作業は大変。そうした状況ではマスクを外して作業することもある」と話され、暑い時期の熱中症対策としてマスクを外して作業する状況もあることへの理解を求めた。

最後に新型コロナウイルス感染症対策の必需品で何か足りないものがあるかと質問を受け、マスクについては一定配置されているが、消毒液については比較的少ない現状が訴えられた。

6月13日(土)、環境省のごみ収集作業員向け啓発動画の撮影が中原生活環境事業所で行われた。内容は、全国のごみ収集運搬作業員に向けた、新型コロナウイルス感染予防の取り組みについて。ウイルスを取り除く正しい手洗いの説明からはじまり、感染を防ぐ保護具の紹介、3密対策や検温の励行を促す動画となっている。動画にはエキストラとして中原分会の推進係の分会員が出演した。

直営をよびこえる

仲間達 (354)

王禅寺分会

山崎陽介

(やまざき ようすけ)

王禅寺処理センターの山崎陽介です。今年王禅寺に異動して4年目、入庁9年目になりました。私の趣味は音楽鑑賞です。その中でもこの10年ずっとハマっているアーティストが岡村靖幸です。最初の出会いは前職場の先輩がカラオケで岡村靖幸を歌っているのを聞いて衝撃を受けました。最近ではまたTVやラジオ等で耳にしたことある人も居るかと思えます。(いまだフアンの人に出会ったことはないですが)今年のライブも今

分会だより 入江崎分会 No.197

入江崎クリーンセンターは施工から44年が経過しているため、建屋、機械類、配管などあらゆるものが劣化し、がたがきています。写真は脱水汚泥を絞ったスクリーンかすを溜めておくバンカーを補修している様子です。汚泥を絞るスクリーンレスという機械に不具合があり、通常より絞りきれず水分を含んでいるためバンカーから漏れ出してしまします。スクリーンプレスはこれから業者による補修工事が行われます。

のところ延期になっていますが、またライブが再開できる状況になったらライブに行つて大音量で音楽を聴きたい！最後に私が最初にカラオケで聞いた曲「どおなつちやつてんだよ」という曲をおすすめして終わります。もし曲が良ければ次はライブで会いましょう。

- ①年齢、②入庁年度、③分会役員、④職種、⑤業務内容、⑥趣味、最近ハマっている事。

このように一つのが壊れると他の部分にまで影響が出るため、毎日の点検で不具合を見つけるとは、補修作業を行い、万全の受け入れ体制を維持できるようにしています。

入江崎クリーンセンターの移転の話が当初より延期されているので、さらなる施設の延命化が求められています。5月1日より新たに会計年度任用職員の方が仲間に加わり9名の職員で日々、施設を維持させるため頑張っております。

隣にいる仲間を想う

〜 在日外国人と日本人は国籍・民族を超えていけるか 〜

第25回

林慶一

●向かい風のときに飛ぶはたして日本で通用するか

ヨンスは日本での就職活動を開始しました。どの職種にするかいろいろ考えました。が、本に興味があったので出版社を中心にあたりました。ヨンスはいわゆる「活字中毒」でした。朝鮮語の本もたくさん読みましたが、日本語の本もジャンルを問わずたくさん読みました。なかでもミステリーと言われるジャンルはよく読みました。一冊を読み終わったら、次の一冊を読み始めるというのではなく、数冊の本を同時進行で読むというスタイルでした。家にいるときはこの本、バスや電車の中で読む本はこれ、トイレではこの本！というような感じでした。

会社へのエントリーは、就職情報誌や新聞広告など思いつくまま大きな出版社から町の書店まで百件近くあたりました。当時インターネットでのアプローチは一般的ではな

く、電話や郵送でのエントリーでしたが、会社訪問まで行けたのは十社ほどでした。ヨンスが就職活動するにあたっての有利な点といえば朝鮮語ができることでした。確かにこれをウリにすればいいのかもしれない。でも日本での就職活動においてヨンスはそうしませんでした。韓国での就職活動は日本語ができるという点を武器に就職をあたっていましたが、これが期待外れに終わり、もはや朝鮮語ができるとか、日本語ができるとかあまり意味のないことのように思えてきたのです。

会社訪問してわかったことは、ほとんどの会社は履歴書を出すまでもなくヨンスの名前を聞いた時点で門前払いされることでした。「えっ？キム？だめだめ！」とか「就労ビザはありますか？」などはまだマシで「アー...ウチハ、ガイジンダメネ。」と明らかに差別的な話し方で断ってくる会社もありました。法律知識のある人ならこの時点で違反だとわか

るはず。まさにこの門前払いの状況は最近の「コロナウイルス感染拡大防止のため」という大義名分の名のもとに特定の民族の人を入店させないという差別と変わりありません。こういった「門前払い差別」は昔からあったのです。

いくつかの会社はヨンスが日本生まれの在日朝鮮人だと理解した上で、日本名で日本人としてなら採用してもいい、将来日本に帰化するなら採用を考えると、言いました。これにはヨンスもあきれませんでした。少し心が動いたのも事実でした。生活のためなら朝鮮人としての自分を捨てて日本人として割り切ってもいいかもしれない、とも考えました。まさに厳しい選択です。キムヨンスでいくか、金山栄一にするか数日間考えてみました。

(次号へ続く)